

跡見学園女子大学 学報



第45回学部卒業式・第7回大学院修了式は3月18日(月)に文京シビックホール(大ホール)にて執り行われ、学部卒業生964名、大学院修了生11名が学び舎を巣立ちました。

また、4月3日(水)には美しい桜に囲まれた新座キャンパス体育館にて、第49回入学式が行われました。1,051名の学部新1年生と、4名の3年次編入生ならびに15名の大学院修士課程1年生の総計1,070名を迎え入れました。夢と希望に満ちた新入生にとって、跡見学園女子大学での学生生活が熱く語り合える充実したものとなることを願っています。

記事内容

- 学長挨拶 ○「跡見ギャラリー」がオープンしました(2)
- 4月 事務局国際交流課を設立 ○ホームページリニューアル(3)
- 溝畑宏先生が客員教授に就任 ○新任教職員自己紹介(4)
- 退職・異動者紹介(5)
- 会津復興支援シンポジウム・アカデミックツアー実施報告(6)
- 桜まつり終了報告 ○ATOMI アカデミア終了報告
- ゼミ紹介 ○学生会情報 ○CLUB NOW(7)
- 留学の記(8)
- 「藤原定家と百人一首」への資料貸出 ○『跡見花蹊の横顔展』開催(9)
- 一ザ・就職ー 2012年度就活総括(10)
- 平成25年度入学試験の総括 ○オープンキャンパス(11)
- 行事予定 ○公開講座リニューアルのお知らせ ○保護者説明会のお知らせ(12)
- 花蹊の筆墨(39) ○心理教育相談所講習会のご案内 ○編集後記

学長挨拶

新年度を迎えて

学長 山田 徹 雄



跡見学園女子大学は、1965年に文学部国文学科、美学美術史学科から構成される単科大学として設置されました。その後、1967年に英文学科、1974年に文化学科を加え、20世紀の間、1学部4学科体制を維持してまいりました。これを跡見学園女子大学の「黎明期」と呼びましょう。

本学が伝統を維持しつつ、革新に着手したのは、21世紀に入った2002年のことでありました。この年、旧4学科を発展的に解消し人文学科とし、文学部に臨床心理学科を設置。あわせて本学にとってブレークスルーともいえるマネジメント学部マネジメント学科を新設しました。その後、現在に至るまで文学部にコミュニケーション文化学科、現代文化表現学科を、マネジメント学部生活環境マネジメント学科、観光マネジメント学科を加え、2学部7学科体制による総合大学へと「拡充期」を経験してまいりました。

跡見学園女子大学は2015年度に創立50年を迎えます。第1のブレークスルーからすでに10年以上が経過し、受験生のニーズや社会の要請は当然変化してきました。これを機に、本学の第2のブレークスルーを企画する段階に至ったと判断しています。

我が国の文部行政は、グローバル化した社会に対応する教育、地域連携を視野にいれた教育を大学に要請し、かつ学生に対して学修時間の確保を求めて参りました。

「アベノミクス」の理念は、国際的な競争に耐えうる我が国の経済・社会の建設を示唆しています。大学とて例外ではありません。

我々は、こういった外部環境を真摯に受け止め、競争に耐えうる教育・研究水準を確立しなければなりません。それは教職員にとってのみならず、学生にとっても同様です。学修において努力を惜しむことは敗北を意味します。努力を惜しんだ結果は自分で負わなければなりません。

私は入学式の学長式辞において、文学部の新生には「深い教養と広い教養の修得」を求め、マネジメント学部の新生には「批判精神の大切さと情報の信ぴょう性の確認の重要性」を強調しました。

学問はなによりも、精神的な豊かさを構築する礎です。モンテーニュは、『随想録』において「無学は悪の母である」と喝破しました。跡見学園女子大学は、教養ある社会人を養成するための教育課程を提供しています。

大学に支払う授業料は、遊ぶ時間を買うための対価ではありません。学問をするための対価です。授業料に見合った教養を身につけるべく、学生諸君が努力することを切に望みます。

「跡見ギャラリー」がオープンしました

東京都文京区との連携による、情報発信・文化活動の拠点「跡見ギャラリー」が4月30日(火)に開設されました。本学園及び文京区の情報発信や文化活動としての役割だけでなく、地域の活性化と公共の福祉を推進することも目的としたものです。このような大学と文京区による地域連携施設の取り組みは初となります。これを記念して、同日、開所式が行われました。

1階には、ギャラリーと教室が設置されています。ギャラリーでは、本学園に関する展示や本学学生・文京区民の作品展示を行います。教室では、本学教員による区民向け講座等を開催します。また、すでに文京区で行われている「ふれあいサロン」も開催され、区民の方と本学学生が交流する各種イベントや教室が行われる予定です。

開館日：月～土曜日（年末年始休館）

開館時間：月～金 9:15～16:30 土曜日 12:30～16:30

※特別展示、文京区関連使用時は、上記の開館時間でない場合があります。

2階は本学の心理教育相談所の分室「ATOMI さくらルーム」を開設し、心のケアの地域拠点となることを目指します。区民の家庭生活や育児などに関する相談や、不登校を考える親の会や教員による心の問題に関する講習会を行います。また、地域の方を対象に、心の健康に関するプログラムを実施します。

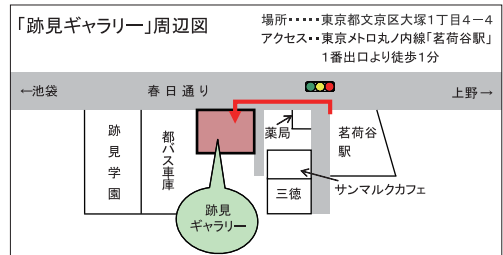
相談日：毎週木曜日、土曜日 ※祝日の場合は休室。

相談時間：午後1時～5時（完全予約制）

予約受付：月～土曜日（午前9時～午後4時）

電話番号：03-3944-8151

*****皆さまのお越しをお待ちしております。*****



4月 事務局国際交流課を設立

この4月より事務局に国際交流課が設立されました。急速にグローバル化が進む社会において、時代に適した女子教育「実践力をそなえた教養人、品性ある社会人、自律し自立した女性」の育成の一助となるべく、教学部門と連携を図り国際交流活動をさらに発展させてまいります。

具体的な取り組みとして、現在全学的に実施している夏期海外語学研修のさらなる質の向上に加え、新規協定校の開拓や、留学プログラムの基盤整備などを推進してまいります。

それに先立ち、友好関係を築いている英国国立スターリング大学に於いて2013年3月19日～3月24日に日本文化に焦点を当てた異文化交流イベント「JAPANESE WEEK」が開催されました。

このイベントには、日本の伝統文化を後世に伝える活動に力を入れている書道家の原田幹久先生や、岩手県を活動拠点とし海外においても国際展覧会の運営等を手掛ける彫刻家の片桐宏典先生も参加しました。

本学からは、学内で選考された学生の書道作品10点が、スターリング大学内の大ホールで展示されました。それぞれが個性豊かな書道作品で現地の方にも大変好評を博しました。

また、書道体験を楽しんでもらうため、書道道具セット8点を本学からスターリング大学へ寄贈しました。JAPANESE WEEK中にこの書道道具を使って、書道体験ワークショップも開催され、多くの参加者が集まりました。

今後も本学の国際交流活動をより活発化させ、学生の語学力向上・異文化理解の促進に努めてまいります。



書道体験ワークショップの様子1



書道体験ワークショップの様子2



本学学生の書道作品

ホームページリニューアル

4月1日からホームページをリニューアルいたしました。

今回のリニューアルの最大の特徴は、女子大学、中学高等学校、法人の三機関のデザインを統一し、基本的に同一の仕様で作り上げたことです。これまで三機関が別々に立ち上げてきたために起こっていたつながりの悪さを解消しました。また、公開する内容を精査し、機関相互で重複していた情報の整理や、学祖跡見花蹊・学園の歩み・校章など必要で重要な情報の追加など、全面的なリニューアルを実現しました。

これにより、跡見学園として統一性のあるホームページができあがりました。

大学のサイトも、これまで別のサイトであった図書館、花蹊記念資料館、心理教育相談所も同一サイトに組み込むとともに、大学の理念・沿革・特色などの重要情報をはじめ、すべてのコンテンツに渡って見直しを図り、新しい構成による新ホームページを完成いたしました。みなさまに、縦横にご利用いただければ幸いです。



跡見学園女子大学×会津若松市

会津復興支援シンポジウム・アカデミックツアー 実施報告

3月20日(水)に本学と会津若松市とのパートナーシップ協定の締結を記念して、「会津復興シンポジウム『新島八重と跡見花蹊』～幕末から明治を駆け抜けた女性～」が文京キャンパスにて開催されました。幕末から明治の激動期を生きた教育界の先駆者である2人の女性と現代の女性の生き方について、現代社会で活躍するハンサムウーマン3名をパネリストとしてお招きし、パネルディスカッションを行いました。また、室井照平会津若松市長や会津親善大使の小日向えりさんをお招きした特別対談も行われ、会津女性の人的魅力についてお話をいただきました。さらに、観光マネジメント学科の学生が(株)日本旅行と協同で開発した会津若松ツアー商品について、活動の経緯やその成果が報告されました。会場には卒業生、

観光業界の関係者、一般の方など、340人以上の方が来場されました。

4月13日(土)～

14日(日)には本学の学生や卒業生が会津若松を訪れる特別企画ツアーが実施されました。このツアーは「八重の桜と本物の会津の精神文化を学ぶ旅」というタイトルで、NHK大河ドラマ「八重の桜」のロケ地や会津若松の観光名所を巡り、本学の学生が開発した旅行商品のコンテンツ「人物観光」を体験するものです。今回のツアーでは現代のハンサムウーマンの一人で150年以上続く酒造業の女将を訪問しました。また、本学園の山崎一



穎理事長と本学の山田徹雄学長も同行し、会津藩の教育機関「曾津藩校日新館」の宗像精館長との特別対談も行われました。総勢50人以上が参加し、会津若松市との連携もより一層深まったようです。

3月30日
実施

桜まつり終了報告



本学では、学園のシンボルである『桜』にまつわる一般向けイベントとして、毎年「桜まつり」を開催しています。8回目を迎える今年3月30日(土)に新座キャンパスで開催されました。

本学の桜コレクションはその種類の多さが特徴で、学内には45種188本の桜が植えられています。今年は桜の開花が例年より早く、ソメイヨシノやサトザクラは満開でした。当日は一時小雨が降るなどあいにくの天候でしたが、多数の方にご来場いただきました。ご来場の方には「構内サクラガイド」をお配りし、多様な桜の美しさをお楽しみいただきました。また、学生団体による模擬店のほか、一紫会や地元の方によりお菓子や野菜なども販売されました。学生による香席「桜香」も行われました。

当日は受験生向けのオープンキャンパスも同時開催されました。彩り豊かな壮観な光景の中で、受験生たちも晴れやかな気分で本学を満喫できたのではないのでしょうか。

ATOMI アカデミア
終了報告

マネジメント学部新入生の1泊2日の旅行、ATOMI アカデミアが2013年4月6日、7日に開催されました。450人の新入生、34人の学生スタッフ、37人の教職員、計521人が参加しました。今年新潟県の「ホテル・グリーンプラザ上越」が宿泊地となりました。1日目は全体会、アドバイザー教員によるグループミーティングなどを行いました。2日目は学科別に行動し、マネジメント学科と生活環境マネジメント学科は、学生スタッフが企画したクイズやゲームを行い、帰路の途中群馬県原田農園でバーベキューを食べました。観光マネジメント学科は塩沢宿を見学し、その様子は新潟日報、読売新聞などで採り上げられました。

出発当日は荒天が予想されたので、集合時間を12時30分から10時に急きょ変更しましたが、学生、教職員の協力ですぐに無事に早めに出発できました。帰りは強風が予想され、バス到着地を新座駅から北朝霞駅に変更しましたが、学生たちは無事帰路につきました。

ゼミ紹介

文学部コミュニケーション文化学科 教授
田中 浩史

田中浩史ゼミ(コミュニケーション文化学演習)

田中浩史ゼミの基本目標は「変化する現代コミュニケーションの実態を研究してコミュニケーションスタイルの未来像を探る」ことにあります。ゼミ生たち43人は「共同研究」と「個人研究」の二つの研究に日々取り組んでいます。

「共同研究」では、今年度は「介護コミュニケーション」についての調査研究を進めています。東京に本部がある介護事業会社(株)やさしい手にご協力いただきアンケートを実施(8月下旬)して、その調査結果を年度末までに小冊子にまとめる方針です。「よりよい介護コミュニケーション」とはどういうものかを探ります。並行して、「記録映画」を製作してゼミのホームページで公開したり、フリーペーパーも作成して学園祭やキャンパス周辺で配布します。

「個人研究」では、ゼミの目標にそって各自が好きな研究テーマを設定し、3~4年の2年間で継続研究して卒業論文につなげます。「フラッシュモブ」「オープンエンディング」「口紅」「web スラング」「バイク」「読み聞かせ」とコミュニケーションの関係を探る研究など今までにない独自の研究が進んでいます。

マネジメント学部マネジメント学科 教授
イシカワ カズ

アート/広報マネジメント

イシカワゼミでは「アートマネジメント」と「広報マネジメント」という二つの異なる分野の研究と実践を行っています。

アートマネジメント分野では、現代音楽作品の紹介を行う非営利のミニコンサートを毎月渋谷で開催。また福井県の「武生国際音楽祭」の東京オフィスとしての機能もゼミで担い、夏の開催時期にはゼミ生が運営スタッフとして参加。日本の音楽分野に対する貢献を果たしています。

また、広報マネジメント分野では学科ウェブサイトの制作・更新作業や、海外の先進企業の広報研究活動を展開。実践ゼミでは「IKEA研究会」を立ち上げ、家具分野での世界企業であるIKEAの多面的な研究を進めています。

そしてTOEIC対策を含めゼミ独自で英語能力向上を目指しており、上記の各種活動と相まって、将来クリエイティブ分野に進むための基本的な素養をしっかりと身につけています。

学生会情報

学生会本部 会長

新学期も始まり、学内の雰囲気もだんだんと落ち着き始め、新入生の皆さんは、大学生活にも慣れてきた頃かと思えます。

今、私たち学生会は6月に開催される「学生総会」「学長と語る会」の準備を進めています。学生総会では皆さんからお預かりした学生会費の決算報告等を行います。また、学長と語る会では、学生の皆さんの声を直接学長先生にお伝えする貴重な場となっております。充実した会となるよう、学生の皆さん、是非ご参加ください。

この他、学生会では、秋のテーブルマナー講座や11月に行われる大学祭(紫祭)の後夜祭、12月の各学生団体の代表の研修会であるクラブリーダー交流会などの企画運営も行っています。

学生生活を充実させるための活動を、私たちと一緒に企画運営しませんか? お待ちしております!!



CLUB Now

広告研究部

ごきげんよう。広告研究部です。

このたび私たちは、(株)プレシディオ主催の『髑髏城の七人』学生向けプロモーション・宣伝企画実行コンテストに参加し、銅賞を受賞しました。

受賞した企画は、『『髑髏城の七人』に登場する男性キャラクターの中で跡見生が選ぶ理想の男性は誰か!』というイベントを通して、映画の知名度拡大と劇場シネマの良さや映画情報を発信するという内容です。単なる人気投票ではなく、女子大生が大好きな恋愛話と性格診断を組み合わせることが、女子大の強みを生かした企画として評価されました。イベントに参加してくださった1、2年生の皆さん、本当にありがとうございました。

今まで紫祭(大学祭)でのミスコンテストの運営を中心に活動してきましたが、これを機会に活動の幅を広げていけたらいいなと思っています。



留学の記事

跡見学園女子大学 文学部 教授 泉 雅博

若い頃、古文書の調査・研究に携わっていた日本常民文化研究所に、留学の機会を与えられた。特に、今は亡き網野善彦先生を団長にして、十年間に渡って行われた奥能登と時国家の調査は忘れがたいものである。本学に職を得てからも日本常民文化研究所との関わりは切れることなく、やはり網野先生から声を掛けられ、伊東市史の編纂事業に参加するようになってからは伊豆の古文書を見る機会も多くなった。留学に当たっては、この能登と伊豆の古文書を集中的に検討する計画を立てて臨んだ。

研究課題は「日本近世海城社会の研究」と定め、前半は伊豆、後半は能登の古文書に向き合うこととした。作業の中心は資料の収蔵される研究所であるが、時間を作っては現地調査に出掛けた。古文書の生み出された土地に身を委ねることは、古文書をより深く理解するうえで不可欠なことと思っている。かつては、優に重さ10キロ以上もある大型カメラを背負っての調査であったが、今はデジカメとパソコンという軽装備である。

伊豆と能登では、同じ海辺の集落であっても、漁業生産のあり方や集落構造など大いに異なる点の存することは容易に想像されるところである。しかし一方で、水呑の集住する集落が都市的であるなど類似点も見られ、興味が引かれた。ただ、今回大いに反省させられた点は、これまでの私の研究が、結果として海が人間社会に与える恩恵の側面のみを分析対象としていたことである。未曾有の災害をもたらした「3.11」後の歴史研究においては、人間社会を大きく変容させる自然災害・自然現象をいかに歴史のなかに組み込んでいくかが課題としてクローズアップされてきている。津波など、海が人間社会に与える脅威の側面にも分析のメスを入れ、自然と人間社会との関わりをトータルに捉えることが求められているのである。今回の留学を機にして、そうした新たな研究課題にも気付かされ、一步を踏み出すことができたことに深く感謝を申し上げたい。

跡見学園女子大学 文学部 教授 岩田 秀行

東の方、無縁坂を下りつつ、「雁」の不条理な偶然を考え、北の方、権現坂を下りつつ、「青年」の未亡人の蠢感に感じ入り、また団子坂を下って根津に至る道筋では、「三四郎」と美禰子の姿が幻影のように去来したりもした。西の方、菊坂を下ると、今も樋口一葉が質草を置いた見世が残り、南の方には川柳で有名な「かねやす」が洋品雑貨の店に姿を変えて残っている。池之端門への急な下り坂に掛かると、上野寛永寺へ打ち込んだアームストロング砲の先進性と、そして反射的に図書館の閲覧室にひっそりと掛かる徳川慶喜の「南葵文庫」の悠揚たる書を想起せずにはいられなかった。史料編纂所では「重野安禪と久米邦武」の修史局の昔を思い、明治新聞雑誌文庫では「宮武外骨」の先進性に胸を打たれた。

本郷台の最高地に位置する東京大学のキャンパスとその周辺を歩むと、自然と幕末から明治期への日本の近代

化の流れが、その明と暗とを織り混ぜて、強く私の胸に迫って来る。東京大学での1年間、その行き帰りの途路に、そうした近代の歴史と文学とに思いを馳せることが出来たのは望外の余慶であった。

東京大学では、私学研修員の身分を得、長島弘明教授のもと、「江戸期および明治初期の草双紙と歌舞伎との関わりについて」のテーマで調査を進めた。大学院の二つの演習に出席を許され、研究者を目指す若い人びとと触れあえたのもよい経験であった。共同研究室では、韓国、イタリア、スイスからの研究員の人びとと有益な交流をおこなうこともできた。また、研究テーマに関わり、留学先の東京大学国語国文学会誌に、「見立て」追考（『国語と国文学』2013年4月号）の論文発表を行うことができた。貴重な研究時間を与えていただいたことに心より感謝したい。（人文学科教授）

跡見学園女子大学 マネジメント学部 准教授 櫻川 幸恵

2012年4月1日から2013年3月31日までの1年間、米国ニューヨークにあるコロンビア大学日本経済経営研究所（Center on Japanese Economics and Business、以後CJEB）に客員研究員（Visiting Fellow）として研究する機会を得た。研究テーマは、土地担保経済における生産性ショックの波及効果についてである。

コロンビア大学を含めNYでは、セミナー等が大変充実しており、CJEBでのVisiting Fellow同士での研究報告会のほか、大学内外の様々な研究機関が開催するシンポジウムやセミナーなどに参加することができた。これらは、経済に対する理解を深めさせてくれるのと同時に、どういった意識・心構えで研究を行う必要があるのかを改めて考えさせられる機会となった。また金融の本場であるということもあり、金融の実務家の話を伺う場

にも恵まれ、巨大銀行や格付け会社の人たちがどのような意識で仕事をしているのかを知ることができた。これは、リーマンショックおよびそれ以降のアメリカの経済・金融事情を理解するうえでも貴重なものであった。

日本経済のプレゼンスという点では、2月に行われたノーベル経済学賞受賞者をパネラーとして含む、世界経済を考えるシンポジウムが考えさせられた。五大陸それぞれの経済に関して今後の展望が議論されたが、アジアのパートで日本のことはまったく触れられない。シンポジウム後に、CJEB所長のPatrick教授が「20年前と全く様相が変わってしまった。20年前にはアメリカは日本を恐れていたものなのだが」と寂しげに私にお話しされたのが印象に残っている。

小倉百人一首殿堂「時雨殿」 —— リニューアルオープン1周年記念企画展 「藤原定家と百人一首」への資料貸出 図書館

平成24年春にリニューアルした小倉百人一首殿堂時雨殿（京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11）の、リニューアルオープン1周年記念企画展「藤原定家と百人一首」に、下記の本学所蔵資料3点を貸与しました。

- ①百人一首（伝東常縁書、室町後期、写本）
- ②百人一首画帖（狩野探幽模写画、江戸初期）
- ③図変わり百人一首かるた（肉筆、かるた一組）

これらは、本学所蔵の百人一首コレクションの中でも貴重書に属し、関西では初めての公開となりました。

今回の企画展では、本学資料に加え、公益財団法人冷泉家時雨亭所蔵「定家図」、株式会社小倉山荘所蔵「明月記断簡」など貴重な資料が展示されました。



『跡見花蹊の横顔展』開催

花蹊記念資料館では、平成25年3月22日から『跡見花蹊の横顔展』(写真1)を開催した。

学校法人跡見学園の歴史は、1875(明治8)年「跡見学校」(神田中猿楽町)開学に始まる。学祖跡見花蹊は、知育のみに偏らない教育を理想としたが、その

背景にはやがて家庭人となるであろう女生徒たちに役立つ教育をという深淵なる配慮のもと、点茶・挿花・裁縫などの実践的な教育もおこなわれた。

今回の展示では、第一展示室において開学当初からの本学園の実践的な教育のひとつである点茶(茶道)と作法に焦点をあてて展示をおこなった。学祖跡見花蹊は、女子教育に茶道を取り入れた第一人者として評価されており、花蹊自身も日々点茶を嗜んでいたことが自身の日記や口述した書籍から何うことができる。

展示室の入り口では、正装をした跡見花蹊(写真パネル)がお客様をお出迎えする。室内では、開学当初の実践的な科目の授業風景の写真をパネルで紹介した



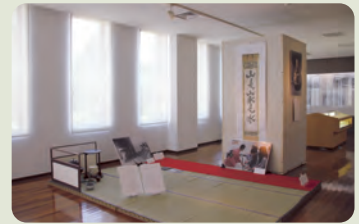
(写真1) 展示ポスター

上で点茶(茶道)授業風景を再現した(写真2)。

つづいて、第二展示室ではその学校で生徒たちはどのように過ごしたのか、校服を中心に学校の歴史をたどった。展示ケースおよび壁面では、写真資料を中心に活用しながら、開学当時の生徒から、現在の大学生までの様子をたどれるよう試みた。展示室の中央の展示ケースには、第一展示室の入り口正面にかけた写真で花蹊が着用している小袷(写真3)と花蹊が考案した小袷の2点を展示した。

エントランスでは、桜まつりにあわせて新座キャンパス内の桜の花の写真パネルを中心に展示し、さらには桜をモチーフにして作成された扇子、袱紗などの品々や今年に入って開花した桜の花を液浸標本として展示した。

満開に咲き誇るキャンパスの桜に劣ることなく、資料館のエントランスも春の華やかな装いで訪れるお客様をもてなしたいという意図の展示である。



(写真2) 点茶授業風景再現



(写真3) 花蹊着用小袷

－ザ・就職－

2012年度採用戦線を振り返り、跡見生の就活を総括する

就職部長 大野 二期 (マネジメント学部)

2012年度の就職活動は、再度の安倍政権誕生による日本経済再生の兆しを感じられる中で終了した。採用戦線は、長期化・早期化を排除するための採用開始時期などのルール変更など、新たな環境変化を加えつつ、厳しさは依然として残る中で、結果としては前々年の最厳冬期を脱出した感がある。

1. 雇用環境の厳しさは常態化している

昨年12月の総選挙により、日本の年替わり政権7回目の「回転ドア」は振り出しに戻った。米国は2期目、中、露、韓など主要国のトップが交代し、国際政治でも転換点を迎えている。日本経済は「失われた20年」はおろか、「…30年」も懸念される中で、やっと歯止めが掛けられた様子を迎えているようだ。少子化による日本人人口の減少、グローバル経済の進行、東日本大震災からの着実な復興、など大きな課題の解決も迫られている。

①若者雇用の陰り

団塊世代が現役を引退し、年金世代になる「2012年問題」を引き伸ばすために、企業での雇用期間を65歳まで伸ばす方策が進行し、雇用の場での老若戦争が生じている。技量・覇気に乏しい若者より、経験豊かでやる気がある高齢者を確保したがよいとの判断で、若者の高失業率を招いている。また、安定経営のための雇用形態の多様化は、若者の正規雇用にも悪影響を与えている。

②採用開始時期の再度の変更

今年3月に卒業した学生(13年卒生)から、企業の採用活動の開始時期は従来から2ヶ月遅れの12月開始になった。従来の6ヶ月の選考期間が4ヶ月に短縮した。採用する企業側も、採用される学生の側も、持ち時間が2/3になった。このため、マスコミには企業の正直な感想が示されている。曰く、「採用担当者の数には限りがあり、限られた時間の中で、欲しい人材を確実に確保するためには、より合理的な採用方法を取らざるをえない。幅広く会社説明会を開くよりは、先方の大学に出向いて説明会を行う」とのことである。見えない参入障壁があるようだ。さらに、今の2年生(16年卒生)からは、3年生の3月に解禁、8月に選考開始の新採用スケジュールが、内閣から経済界に要請されている。ますます密度の高い就職活動が要求される。

③就活生の支援活動の拡大・進化

本学の就職支援活動は、3年生の時期を中心に、常に見直しつつ各種支援プログラムを行っている。ただし、就職課メンバーは文京に常駐しているため、1・2年生へ手当てが十分ではない。この解消のため、2年生を対象にしたプログラムを充実させて、文科省も推奨する「就業力」確保のための支援策を検討中である。また跡見生も「3年で3割」の例外ではない。就職後の早い時期に、次の職場を決めないまま退職する卒業生を散見する。この卒業生の再就職支援も本来業務の一環である。卒業生

により組織される「一紫会」の全国に在住する多様な先輩たちの応援も頂きつつ、現役生たちの支援活動を推進して参りたい。

2. 2012年度就職活動の総括

(1)全体的な総括

「続行する厳しい雇用環境」の採用戦線は、厳しさはやや緩んできたものの、リーマンショック以前の状態への、さらなる回復には至っていない。本年3月の厚生労働省・文部科学省から公表された「大学生の就職内定率」(2月1日現在)では全国で81.7%となり、前年同期比1.2%増で、2000年以降の最低であった値を2年連続上回った。

(2)跡見生の成果

下記の成果は、趣旨を十分理解し協力していただけた卒業生及び学内外の多くの方々のご賜物である。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻をお願いしたい。

①【就職内定率】(求職者数に対する就職者数)は93.3%(昨年92.1%:以下も同様)であった。卒業生964名(68名増)、就職希望の学生823名(78名増)のうち、「内定を得て」各職場で新入社員として、第一歩を踏み出すことができた学生768名(82名増)の割合である。学科別を含む内定率の全体像は表1である。最後まで頑張った学生達の努力の成果がこの数字である。

②【就職希望率】(卒業生に対する求職者数)は85.4%(2.3%増)である。経済的にも精神的にも自律する女性を育成していくことが、「時代を担う女性人材の供給源」としての本学の使命である。学部別には進学傾向が高い臨床心理を抱える文学部が80.1%(0.1%増)、マネジメント学部が94.6%(4.6%増)とそれぞれ、大台を確保した。

③【卒業生進路掌握率】は100.0%である。卒業生一人ひとりの卒業時点での、対象者全員の進路を掌握する事は、「育てた人材」を社会に送り出す大学として、極めて重要な使命と責任である。今後卒業生の再度の支援活動のためには不可欠なものと認識している。2年前の大震災時にこの記録は一時途絶えたが、また回復している。

表1 12年度の就職実績 (3月31日現在 単位人、%)

学 科	卒業生数	就職希望者数	就職者数	内定率(%)
人文学科	389	307	279	90.9
コミュニケーション文化学科	106	93	87	93.5
臨床心理学科	117	90	82	91.1
文 学 部	612	490	448	91.4
マネジメント学科	252	235	226	96.2
生活環境マネジメント学科	100	98	94	95.9
マネジメント学部	352	333	320	96.1
全 学	964	823	768	93.3
前 年 度	896	745	686	92.1

平成25年度入学試験の総括

入試部長 村上 雅巳

平成25年度入学試験は、前年度に比べ志願者の伸びが顕著であった。募集定員(870名)に対する志願者数は、平成24年度入試では2,085名、平成25年度入試では2,461名であり、1.18倍の増であった。特に一般入試で志願者が大幅に増え、前年度比1.24倍の志願者があった。一般入試の内では、本学の試験を受験するA方式が1.27倍、大学入試センター試験を利用するB方式が1.20倍であり、募集定員の一番多い一般入試A方式での志願者の伸びが著しかった。

一般入学試験以外では、AO入学試験が昨年度とほぼ同じ222名、推薦入学試験は昨年度より16名多い371名の志願者があった。この結果、志願者全体に占める一般入試志願者の割合は75.9%となり、4分の3を超えることとなった。一般入試において、学科別の募集定員に対する志願者の割合をみると、割合が高い順に、観光マネジメント学科が5.66倍、現代文化表現学科が5.40倍となり、平成22年度に開設した両学科の志願状況が依然堅調であることが分かる。

一方、入学者数および入学者の定員比率をみると、大学全体の入学者は1,051名、定員比率は1.21倍である。学部別では、文学部は入学者601名、定員比率1.18倍であり、マネジメント学部は入学者450名、定員比率は1.25倍となり、両学部とも昨年度を超える入学者を確保することができた。

以上の通り、平成25年度入試では志願者、入学者とも前年度を大きく上回る結果となった。この傾向が平成26年度以降も続くよう、引き続き本学の特色と魅力の発信に努め、学生募集にさらに注力していきたい。

平成25年度入学試験結果

●学部1年次

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文	人文	180	488	472	419
	現代文化表現	90	280	271	214
	コミュニケーション文化	120	301	293	264
	臨床心理	120	379	365	216
	学部計	510	1,448	1,401	1,113
マネジメント	マネジメント	210	619	596	527
	観光マネジメント	90	287	284	205
	生活環境マネジメント	60	107	104	99
	学部計	360	1,013	984	831
合 計		870	2,461	2,385	1,944

●学部3年次 編入学・学士入学

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文	人文	若干名	3	3	1
	現代文化表現	若干名	1	1	0
	コミュニケーション文化	若干名	6	5	3
	学部計	—	10	9	4
マネジメント	マネジメント	若干名	3	3	1
	観光マネジメント	若干名	3	2	0
	生活環境マネジメント	若干名	0	0	0
	学部計	—	6	5	1
合 計		—	16	14	5

●大学院

研究科	専 攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本文化	8	2	2	1
	臨床心理学	12	33	33	17
	研究科計	20	35	35	18
マネジメント	マネジメント	15	5	5	3
	研究科計	15	5	5	3
合 計		35	40	40	21

Open Campus

2013年度オープンキャンパスのご案内

●オープンキャンパスイベント内容

大学説明・個別相談・模擬授業・学食体験・在学生と語ろう
入試説明・キャンパスツアー など

文京キャンパス	
7月20日(土)	13:30~17:00
8月4日(日)	10:30~15:30
8月25日(日)	10:30~15:30
9月21日(土)	13:30~17:00
11月23日(土)	13:30~17:00

新座キャンパス	
6月22日(土)	13:30~17:00
7月28日(日)	10:30~15:30
8月18日(日)	10:30~15:30
11月2日(土)	10:30~15:30 ※紫祭と同時開催
11月3日(日)	10:30~15:30 模擬授業は行わない

◆ 行事予定 ◆

7月	15日(月)	授業実施日
	16日(火)～18日(木)、 22日(月)、23日(火)、 26日(金)	授業評価期間
	23日(火)	土曜日振替授業実施
	24日(水)、25日(木)	補講日
	26日(金)	春学期通常授業終了
	27日(土)、 29日(月)～8月2日(金)	春学期定期試験期間
8月	3日(土)	春学期定期試験予備日・ 追試験日
	5日(月)～31日(土)	夏季休業(集中講義等あり)
	4日(日)～9月4日(水)	夏期海外語学研修 (英国・スターリング大学)
9月	2日(月)～24日(火)、 30日(月)	補講期間(集中講義等あり)
	25日(水)	9月期卒業式
	25日(水)～27日(金)	秋学期 オリエンテーション期間
10月	1日(火)	秋学期通常授業開始
	1日(火)～2日(水)、 3日(木)～4日(金)	秋学期1次履修登録 申請期間
	8日(火)～9日(水)	秋学期2次履修登録 申請期間
	12日(土)、14日(月)	履修登録訂正期間
	14日(月)	授業実施日
11月	2日(土)、3日(日)	紫祭

公開講座リニューアルのお知らせ

今年度春期より、公開講座をリニューアルしました。従来開講されていた語学コースから英会話(中級・上級計二クラス)、中国語会話(初歩・応用計二クラス)へ改編しました。英会話では従来よりもテクニカルなクラスを設置し、中国語会話では、初心者用の初歩クラスを設置しました。また、新たに古文書読解コース(初歩・応用計二クラス)を新設しました。

秋期公開講座では、九月下旬よりパソコンコース・語学コース・古文書読解コース・教養コースを順次開講する予定です。講座の詳細は、八月下旬頃に大学HPに掲載する予定です。秋期公開講座のリーフレットの送付を希望される方は、学務部教務課までお問い合わせください。

照会先 学務部教務課 TEL: 048(478)3340

保護者説明会のお知らせ

本学では高崎・新潟・宇都宮・仙台・文京の5会場において、保護者の方を対象とした「保護者説明会」を開催しております。説明会では教育や進路支援の実際につきましてご説明申し上げ、本学の教育に関しまして御理解を深めていただくことを目的としています。

また全体説明後には個別相談ブースを設け、就職・奨学金・成績/履修・国際交流など各担当者が個別に相談に応じます。

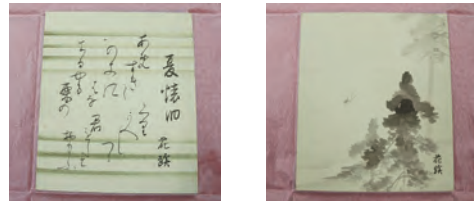
会場	期日
高崎会場	8月24日(土)
新潟会場	8月25日(日)
宇都宮会場	8月31日(土)
仙台会場	9月1日(日)
文京会場	10月19日(土)

花蹊の筆墨(39)

墨絵・和歌色紙「夏懐旧」一葉

本色紙は跡見純弘コレクションの中の一葉である。花蹊先生の作品。色紙は表裏とも書と水墨画で構成されている。水墨画は奥に薄く描かれた大きな1本の木が、画に奥行きを出していると同時に、和歌と対応させているのか、雨上がりのまだ霧がかかったような状態をも連想させる。前に描かれた木々の墨の濃淡が、静謐な森の木立を見事に表現している。その木立の中から、雨上がりを待ちかねていたように一羽の鳥が飛び立っている。鳥は季節的に不如帰だろうか。

この画と和歌は同時に書かれたものか、前後があるのか不明だが、画讀と一般的によぶように画に付けた和歌であろう。和歌は「夏懐旧 あめすぎて のきにはなちる やま栗の くりかへしつ つ 君をしそ おもふ」とある。夏懐旧とあるから、夏のあるひ、雨が過ぎた後、雨に打たれたやま栗の花が軒先に散っている、その光景を目して、「繰り返しなんどもあなたのことを懐かしく思う」と謳う。栗の花には決して派手さはないが、その花をみてしみじみ何度も思いたす「君」は花蹊先生にとって余程「大切な存在の人」なのであろう。



(花蹊記念資料館 館長 倉石あつ子)

心理教育相談所講習会のご案内[新座キャンパス]

跡見学園女子大学附属心理教育相談所主催による講習会を以下の日程で開催いたします。本学教員が、日常の「ところ」に関するテーマをとりあげて行います。どうぞお気軽にご参加下さい。

実施日時	時間	テーマ	担当教員
7/9(火)	10:40～ 12:10	さわやかな自己表現のためのトレーニング	宮崎圭子
7/20(土)	13:00～ 14:30	ところを癒す～紙とクレヨンを使って～	松喜くみ子
9/21(土)	10:40～ 12:10	老年期のところの病気	宮岡佳子
9/28(土)	13:00～ 14:30	不登校の子どもの理解と対応	野島一彦
10/5(土)	13:00～ 14:30	「明日」(“Tomorrow is another day.”)	片野智治

*参加費: 無料 *開催場所: 新座キャンパス

*申込は往復はがきにて(〒352-8501新座市中野1-9-6)

*詳細はホームページ(<http://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/training/>)をご覧ください。

● 編集後記 ●

跡見では今年度、「跡見ギャラリー」と「国際交流課」開設の2つの大きなプロジェクトがスタートしました。皆さんも将来に向けて、より豊かな学生生活を目指して、何かプロジェクトを始めてみてはいかがでしょうか。私たち教職員は、皆さんの充実した学生生活を全力でサポートします。